

## 第2章 防府市における生涯学習の現状と課題

### 1 生涯学習推進の経緯

本市では、平成9年に、本市独自の生涯学習の指標として、「防府市民の誓い」を具現化した「防府市生涯学習のまちづくりの目標」を策定し、住民参加型の生涯学習によるまちづくりを展開してきました。

平成12年3月には、「防府市生涯学習のまちづくり目標」を実現するために、「防府市生涯学習推進計画(学ぼうやプラン)」を策定し、同年9月22日に市議会の決議を経て、同年10月7日に、市民意識の高揚を図るとともに、行政、民間団体、市民が一体となり生涯学習を推進していくため、「生涯学習都市宣言」を行いました。

その後、平成24年3月には、地域との協働など、新しい課題に対応していくため、「第2次防府市生涯学習推進計画」(平成24年度から令和3年度まで)を策定し、平成28年度には計画の見直しを行い、生涯学習によるまちづくりの推進を図ってきました。

#### 生涯学習都市宣言

わたくしたちは

防府市民の誓いの理念に基づき

生涯にわたり楽しく学びながら

- 思いやりとふれあいのあるまち
- 歴史と文化の薫るまち
- いきいきとした健やかなまち
- やすらぎのある住みよいまち
- 未来に向かって飛躍するまち

の実現に向けて努力することを決意し

ここに防府市を

「生涯学習都市」とすることを宣言します。

平成12年10月7日

防 府 市

## 2 生涯学習推進計画（第2次）における取組と課題

「第2次防府市生涯学習推進計画」では、「いつでもどこでも学べる環境づくり」、「ひとりひとりがきらめく人づくり」、「学びを通じてつながる地域づくり」を基本目標とし、平成24年度から10年後を目標として施策に取り組んできました。基本目標に基づく主な取組や課題は次のとおりです。

### 基本目標1 「いつでもどこでも学べる環境づくり」

#### 【主な取組】

市民の自主的な学習活動を支援するため、各種講座の実施や情報紙の発行、イベントの開催等の多様な学習機会の提供を行いました。

#### ○生涯学習意識の醸成

- ・聞いて得するふるさと講座（出前講座）の実施
- ・生涯学習フェスティバル\*の開催、学ぼうやコンテスト\*の開催
- ・ボランティア協働情報紙\*「まなぼら」、子ども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」の発行

#### ○多様な学習機会の提供

- ・妊娠期、就学期、思春期等の各年齢期に応じた子育て講座の開催
- ・市民教養講座、高齢者教室等の開催
- ・国際交流フォーラム、国際交流フェスティバルの開催
- ・放課後子ども教室\*の開催、職場体験学習の実施、市民文化祭の開催
- ・人権学習市民セミナーの開催



自主企画講座  
（生涯学習フェスティバル）

**生涯学習フェスティバル**：生涯学習ボランティアや市民が主体的に企画・運営し、学ぶことの楽しさを伝えるとともに、多くの市民が生涯学習活動に参加する機会となるイベント。

**学ぼうやコンテスト**：防府市の生涯学習マスコットキャラクター「学ぼうや」とその家族を題材にしたイラスト作品のコンテスト。

**ボランティア協働情報紙**：生涯学習課、防府市社会福祉協議会、防府市市民活動支援センターの3機関で作成する生涯学習・市民活動・ボランティア活動に関する情報紙。

**放課後子ども教室**：放課後等の安全・安心な子どもたちの居場所を確保するために、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動を行う。

○生涯学習関連施設\*の整備・充実

- ・公民館だより等による学習情報発信
- ・小野公民館の建替え等、公民館の整備・改修と維持管理
- ・公民館における教養講座やサークル活動等の実施
- ・子ども読書フェスティバルの開催
- ・青少年科学館、文化財郷土資料館等における講座や企画展の実施
- ・公会堂の改修

○学習相談体制の充実

- ・生涯学習や社会教育に関わる専門的職員への研修の実施

○産学公民\*の教育ネットワークの強化

- ・防府市生涯学習推進協議会による生涯学習推進計画の進行管理と実施状況の総合調整
- ・ボランティア協働情報紙「まなぼら」の発行、ほうふ市民活動フェスタの開催
- ・公開講座の開催、サテライトカレッジや「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催

**【現状と課題】**

生涯学習意識の醸成や多様な学習機会の提供については、施策の体系にもとづき、さまざまな講座やイベントが実施されました。その中でも、聞いて得するふるさと講座（出前講座）は、小・中学校をはじめとする関係機関や団体に積極的に利用案内を行うことで、幅広く活用され、地域の方のつながりや喜びに寄与しているという声が寄せられるなど、一定の成果が認められます。

一方で、課題としては、講座やイベントにおける参加者の固定化が挙げられます。講座やイベントそのものが知られていないことも多く、より多くの人に参加しやすいようにソーシャルメディア\*の活用も含めた効果的な情報発信やきっかけづくりが必要であると考えられます。

また、近年の社会情勢の変化に伴い多様化する学習ニーズへの対応についても課題であり、講座やイベント内容の更なる充実が求められています。

生涯学習関連施設の整備・充実については、市民の学習活動を総合的に支援する地域の拠点施設として引き続き整備に努め、機能面での充実が求められています。

産学公民の教育ネットワークの強化については、連携による成果の検証を十分に行うことでより高い相乗効果が得られるよう、きめ細やかな工夫を行う必要があります。

そして、今後の生涯学習に関する環境づくりにおいては、学習によって得られた知識や技能、参加者同士のつながりを更なる学びや活動につなげ、地域づくりやまちづくりに生かすという視点が一層求められます。

---

生涯学習関連施設：公民館・博物館・図書館等の社会教育施設のほか、スポーツ施設、文化施設、また生涯学習を支援する施設を含む。

産学公民：民間企業、学校、国・地方公共団体、地域住民・NPO等を表す。

ソーシャルメディア：インターネットを利用して個人間のコミュニケーションを促進するサービスの総称。

## 基本目標2 「ひとりひとりがきらめく人づくり」

### 【主な取組】

学習成果を生かせる機会の充実を図り、さまざまな技術や知識を持つ人材が活躍できる体制づくりを行いました。

#### ○生涯学習を支える人材の育成

- ・スポーツ、環境、子育て、障害福祉等に関する養成講座や研修の実施
- ・県主催の「地域協育ネット<sup>\*</sup>」コーディネーター養成講座<sup>\*</sup>の積極的な活用

#### ○学習成果を生かす機会の充実

- ・『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』<sup>\*</sup>登録者による公開講座（学ぼうやセミナー）の開催
- ・生涯学習フェスティバルにおける一般公募による自主企画講座や発表会等の開催
- ・地区文化祭での作品発表
- ・子ども読書フェスティバルの開催
- ・市民文化祭や障害者ふれあい芸術展の開催

#### ○主体的な市民活動への支援

- ・市民活動支援センターを中心とした市民活動団体への支援（相談、情報収集・発信）

### 【現状と課題】

生涯学習を支える人材の育成については、さまざまな養成講座や研修が実施されましたが、人材の固定化や高齢化が課題として挙げられます。新たな人材の発掘や養成に向けては、学習に参加したくなるような柔軟な取組が求められます。

また、養成講座等の開催においては、地域の実情や参加者の習熟度に応じた講座内容の検討など、きめ細やかな対応が必要であると考えられます。

学習成果を生かす機会の充実や主体的な市民活動への支援においても、参加者や参加団体が固定化する傾向にあり、新規参加の呼びかけを積極的に行う必要があります。特に、市民活動の支援においては、市民活動ボランティアマッチング<sup>\*</sup>の活用や関係者間での好事例の共有などを通じて、市民活動団体の基盤強化や活性化、市民活動に対する市民の参加意欲を高めることが求められます。

---

**地域協育ネット**：幼児期から中学校卒業程度までの子どもの育ちや学びを、地域ぐるみで見守り、支援することを意図した山口県が推進する教育支援体制。概ね中学校区をひとまとまりとし、地域協育ネット協議会<sup>\*</sup>を核とした、学校・家庭・地域の連携による仕組み。

**地域協育ネット協議会**：めざす子どもの姿や具体的な活動内容等を共有し、協働で推進する。中学校区内の各学校運営協議会の代表、PTA代表、校長、公民館社会教育教育指導員で構成。

**「地域協育ネット」コーディネーター養成講座**：「地域協育ネット」に係るコーディネーターとして活動する者を対象とし、必要な知識・技能等を身に付け、地域活動の核となる人材を養成する。

**『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』**：ボランティア講師の登録・派遣制度。

**市民活動ボランティアマッチング**：ボランティア活動を希望する市民のボランティア登録と、ボランティアの募集を希望する団体などのニーズ登録を受け、双方に情報提供などを行い、人と活動をつなぐ取組。

## 基本目標3 「学びを通じてつながる地域づくり」

### 【主な取組】

学習成果を、お互いに教え学び合うことで人と人がつながりを深め、地域課題の解決に向けて地域全体で取り組む活動を支援するための仕組みづくり等を行いました。

#### ○地域活動の拠点づくり

- ・「防府まるごと学校のつどい<sup>\*</sup>」の開催
- ・地域連携教育プロジェクト会議の開催
- ・コミュニティ・スクール<sup>\*</sup>の推進
- ・放課後子ども教室の開催
- ・公民館家庭教育学級、就学期子育て講座、高齢者教室等の開催

#### ○地域の協働<sup>\*</sup>を進めるための仕組みづくり

- ・『ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」』による学校づくり、地域づくりの推進
- ・「家庭教育支援チーム<sup>\*</sup>」による子育てひろば、ふれあい体験、子育て学習会の開催
- ・山口短期大学との協働による「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催
- ・青少年育成市民会議<sup>\*</sup>による「家庭の日」運動<sup>\*</sup>に関する啓発用品（ポスター、チラシ等）の作成・配布
- ・母子保健推進員による訪問活動や各地区子育てサークルの実施
- ・家庭教育学級や女性学級等の公民館活動の推進

### 【現状と課題】

地域活動の拠点づくりについては、多様化する市民ニーズに対応するため、公民館の講座や学級において学習プログラムの提供などが求められています。コミュニティ・スクールの推進では、学校運営協議会における協議の充実などによる更なる質的向上を図る必要があります。

また、地域の協働を進めるための仕組みづくりについては、学校や地域の活性化のため、平成28年度には学校支援ボランティアの登録制度である『ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」』を、令和元年度には地域全体での家庭教育力の更なる向上を目指し、子育て経験者等で構成する「家庭教育支援チーム」を新設しましたが、人材の固定化が課題として挙げられ、「学び」を「活動」につなげることを通じて持続可能な仕組みづくりを図る必要があります。

---

**防府まるごと学校のつどい**：コミュニティ・スクール及び地域協育ネットの関係者を対象にした地域連携教育における目標や活動内容等の共有を行うための会議。

**コミュニティ・スクール**：保護者や地域住民等で構成される学校運営協議会の意見を学校に反映させ、より充実した学校運営を図る制度。

**協働**：多様な主体が、それぞれの特性を生かし、互いを尊重し、協力して取り組むこと。

**家庭教育支援チーム**：学習機会の提供、親子参加型行事の開催、子育てに関する情報提供及び相談対応を実施する家庭教育支援を行うことにより、地域全体で家庭教育を充実させていくことを目的とした子育て経験者等で構成するチーム。

**防府市青少年育成市民会議**：市民の総意を結集して青少年育成市民運動を展開し、青少年の健全な育成を図ることを目的とした会議。

**「家庭の日」運動**：青少年を健全に育てるための最も重要な基盤である家庭を見直すために、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、防府市青少年育成市民会議を中心に推進している運動。

### 3 「生涯学習に関する意識調査」にみる現状と課題

#### 「生涯学習に関する意識調査」の概要

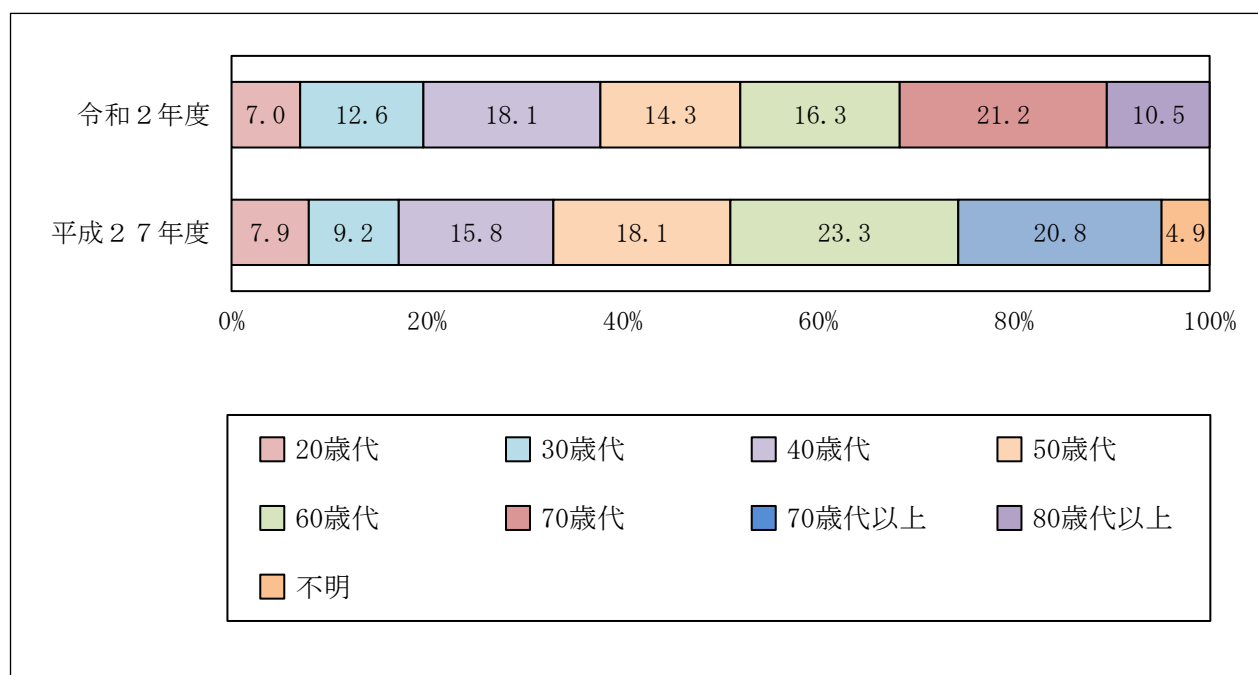
「第3次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン3）」の策定を行うにあたり、防府市民の生涯学習に関する意識と活動の現状及び学習ニーズを把握するため、意識調査を実施しました。

なお、平成27年度の調査結果を踏まえ、令和2年度の調査結果の分析等を行いました。

- 調査対象：市内在住の20歳以上の2,000人を無作為抽出
- 調査期間：令和2年7月1日から7月31日まで
- 有効回答者数：673人（回収率：33.7%）

なお、「n」は当該質問の回答者数を表しており、複数回答が可能な質問については、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

#### ■ 回答者の属性（年代）



#### <参考>

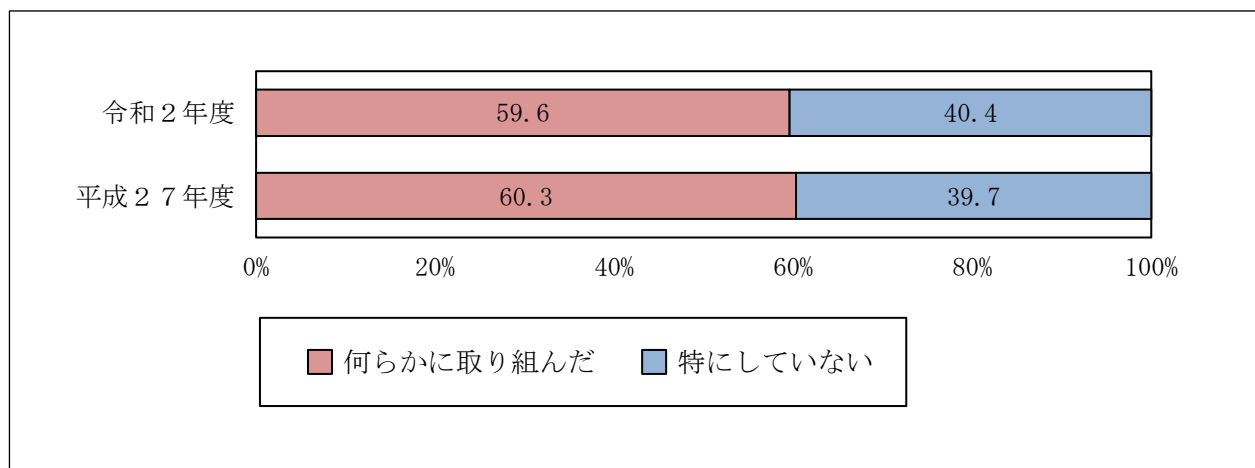
平成27年度実施の「生涯学習に関する意識調査」

- 調査対象：市内在住の20歳以上の2,000人を無作為抽出
- 調査期間：平成27年6月30日から7月31日まで
- 有効回答者数：730人（回収率：36.5%）

## (1) 生涯学習への取組状況について

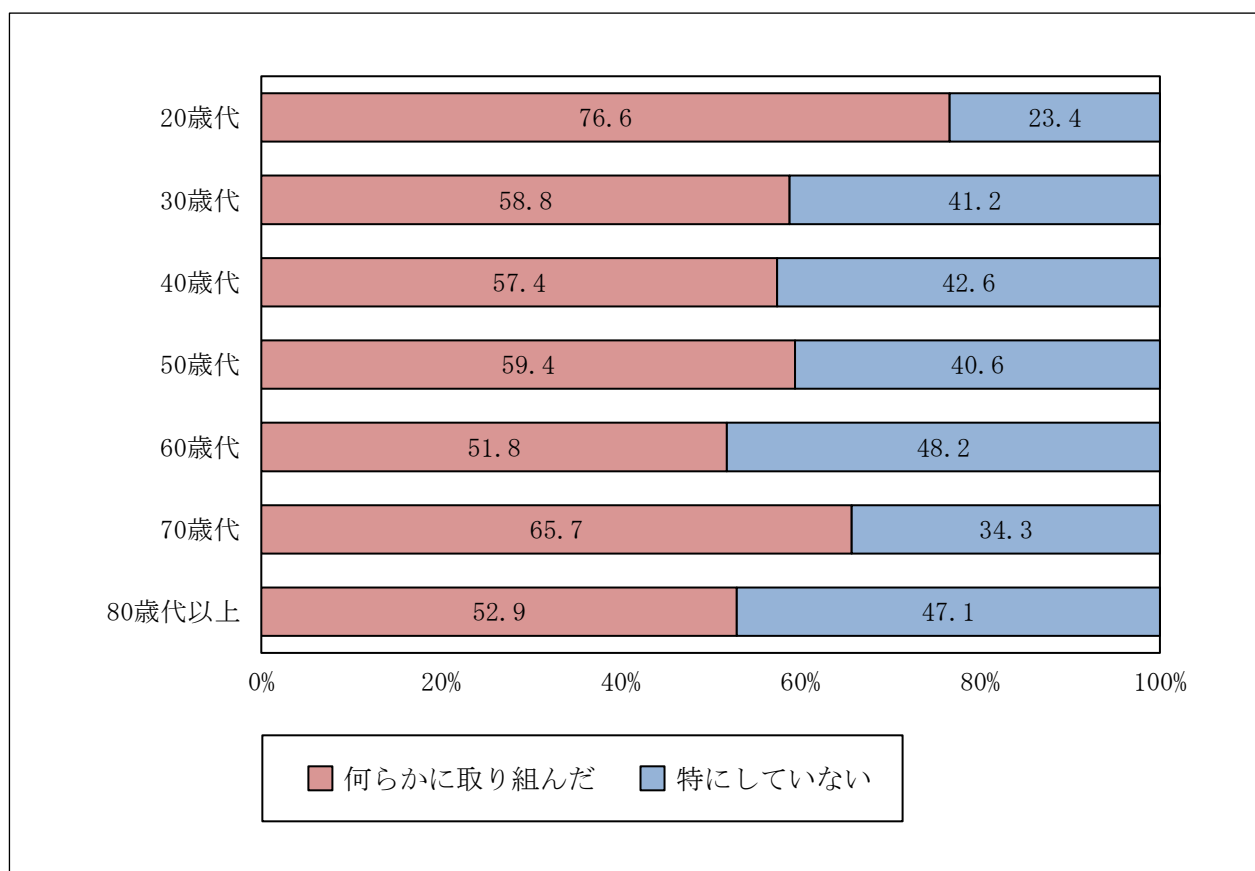
**設問** あなたは、この1年間、何らかの生涯学習活動をしたことがありますか。

## ■ 生涯学習の取組状況について



この1年間の生涯学習については、何らかの生涯学習活動をしたことがあると回答した人は59.6%で、前回の調査結果とほぼ同じ割合となっています。

## ■ 生涯学習の取組状況について（年代別）

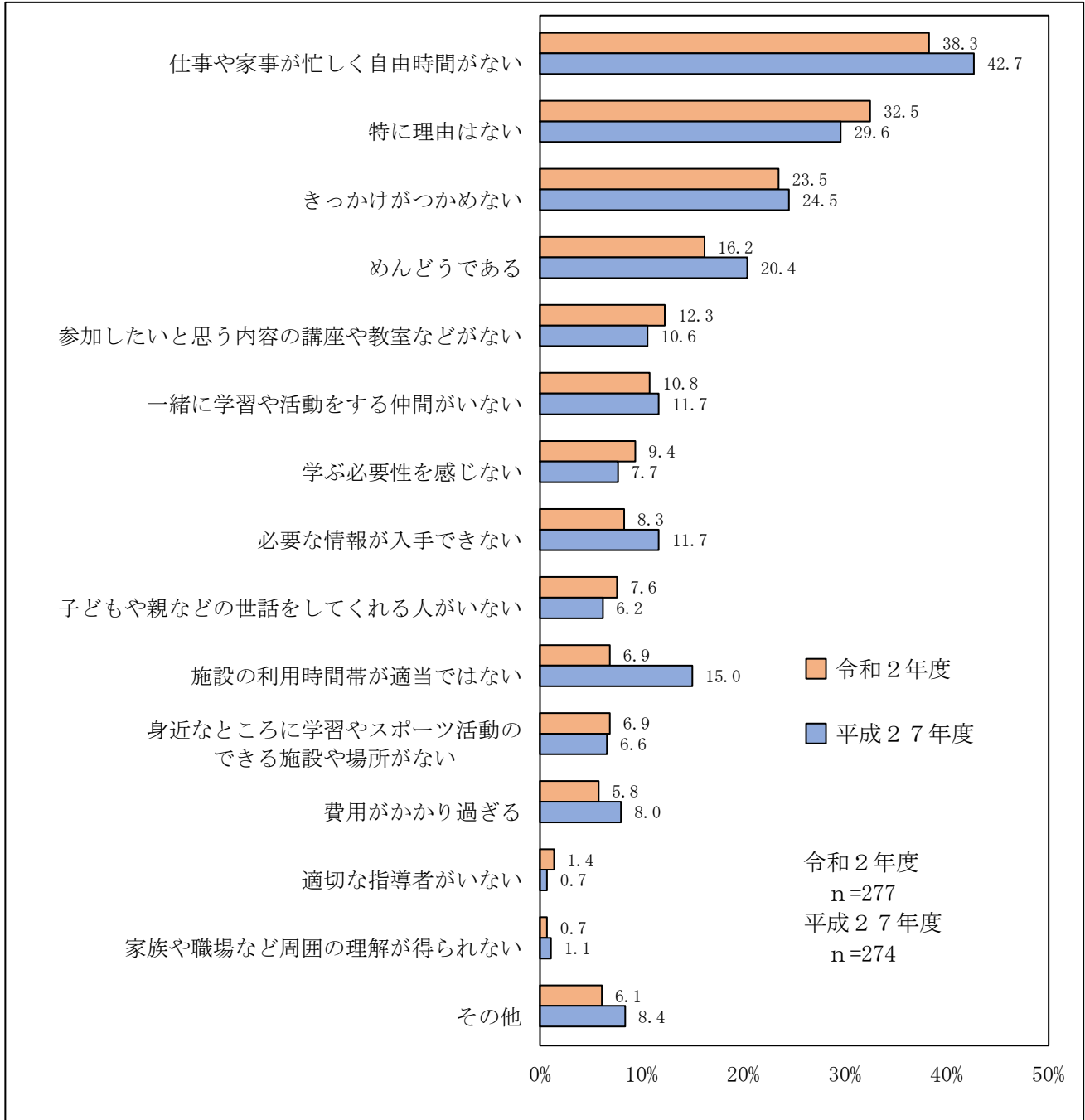


年代別の特徴をみると、20歳代が76.6%と最も高く、続いて70歳代が65.7%となっています。一方、60歳代が51.8%、80歳代以上が52.9%と比較的低くなっています。

(2) 生涯学習に特に取り組まなかった理由

**設問** あなたが、学習活動をしなかった理由は何ですか。  
 (複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

■ 生涯学習に特に取り組まなかった理由について

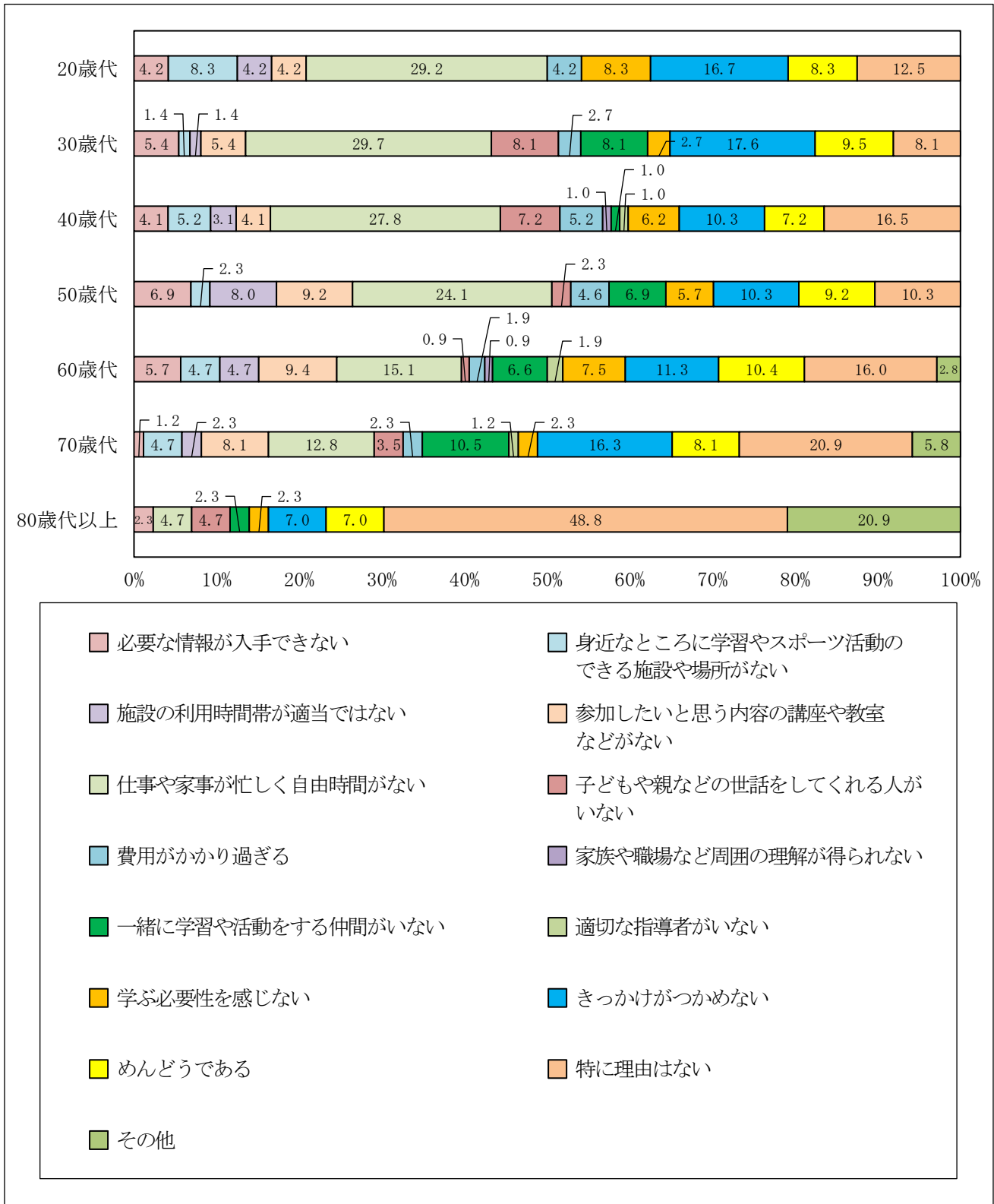


生涯学習を特にしていない理由については、前回調査と同様に「仕事や家事が忙しく自由時間がない」、「特に理由はない」、「きっかけがつかめない」が上位3項目となっています。

また、「施設の利用時間帯が適当ではない」との回答の割合が低くなった一方で、「参加したいと思う内容の講座や教室がない」、「学ぶ必要性を感じない」との回答が多くなっています。



■ 生涯学習に特に取り組まなかった理由について（年代別）



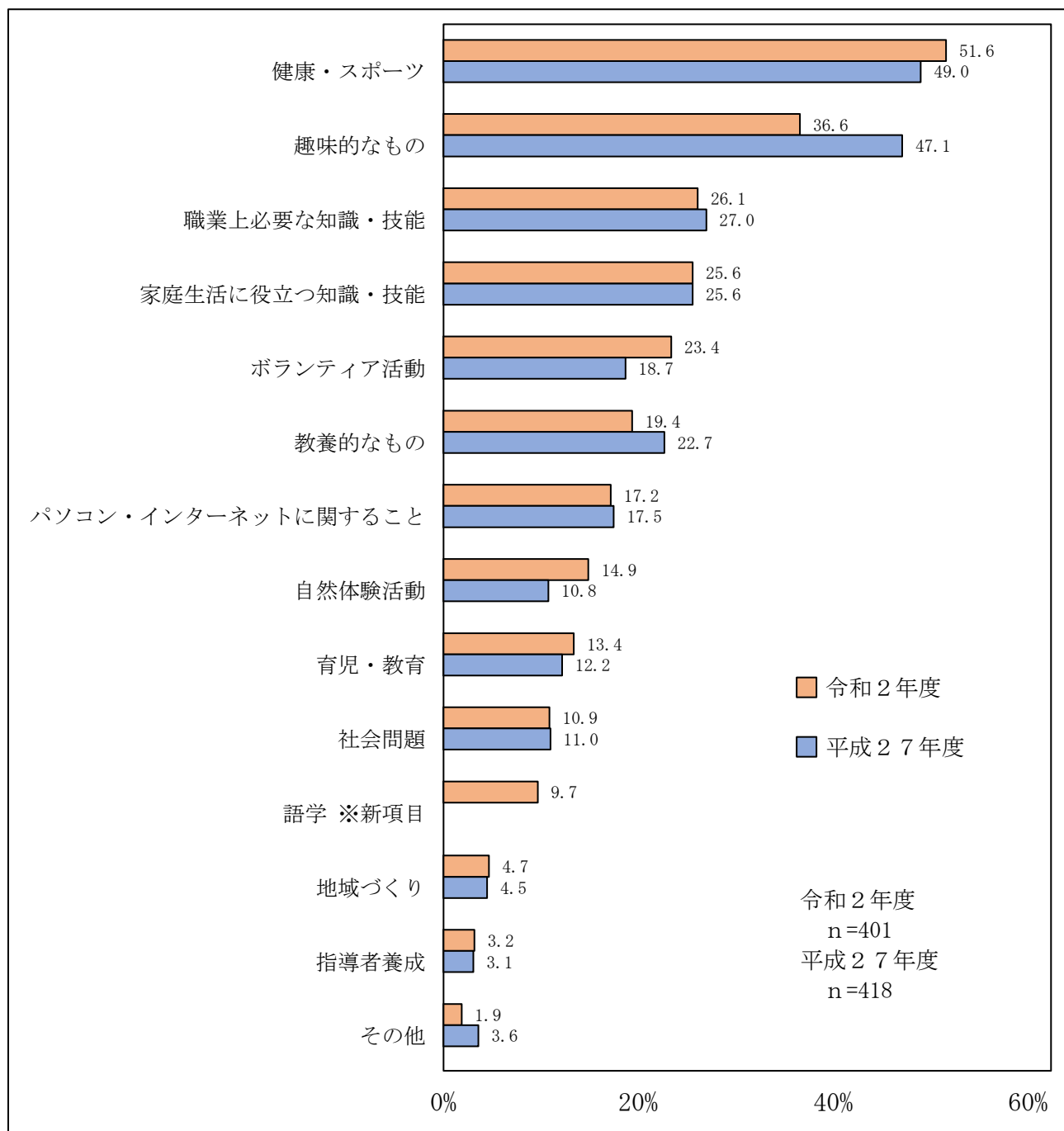
20歳代から70歳代で「仕事や家事が忙しく自由時間がない」、「きっかけがつかめない」が比較的多く回答されており、学習活動をはじめ身近なきっかけの場の創出が重要と考えられます。

また、30歳代で「子どもや親などの世話をしてくれる人がいない」、70歳代では、「一緒に学習や活動をする仲間がいない」が比較的多く回答されており、こうした年代別の特徴からも、対象者のライフステージに応じた魅力あるテーマの学習機会の提供をすることで生涯学習のきっかけづくりを図っていくことが求められています。

(3) 生涯学習の活動内容等について

**設問** あなたは、この1年間、次の分野に関する学習活動をしたことがありますか。  
 (複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

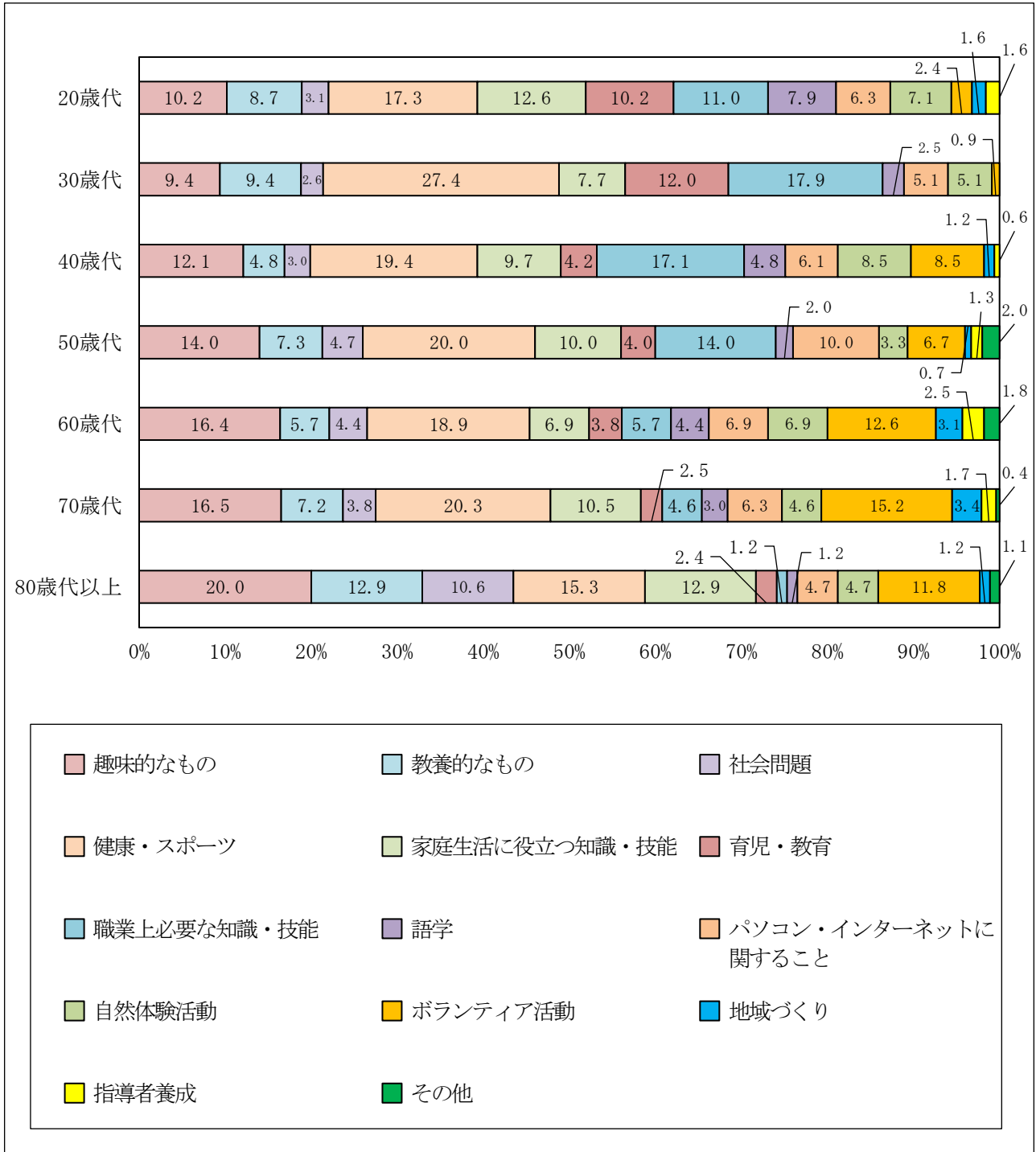
■ 活動内容について



活動内容については、「健康・スポーツ」、「趣味的なもの」、「職業上必要な知識・技能」、「家庭生活に役立つ知識・技能」が上位項目となっており、前回の調査結果と共通しています。

一方、前回の調査結果と比較すると、「趣味的なもの」、「教養的なもの」の割合が低くなり、「ボランティア活動」や「自然体験活動」の割合が高くなっています。

■ 活動内容について（年代別）



年代別に見ると20歳代から70歳代で「健康・スポーツ」の割合が高くなっており、80歳代以上では「趣味的なもの」の割合が高くなっています。

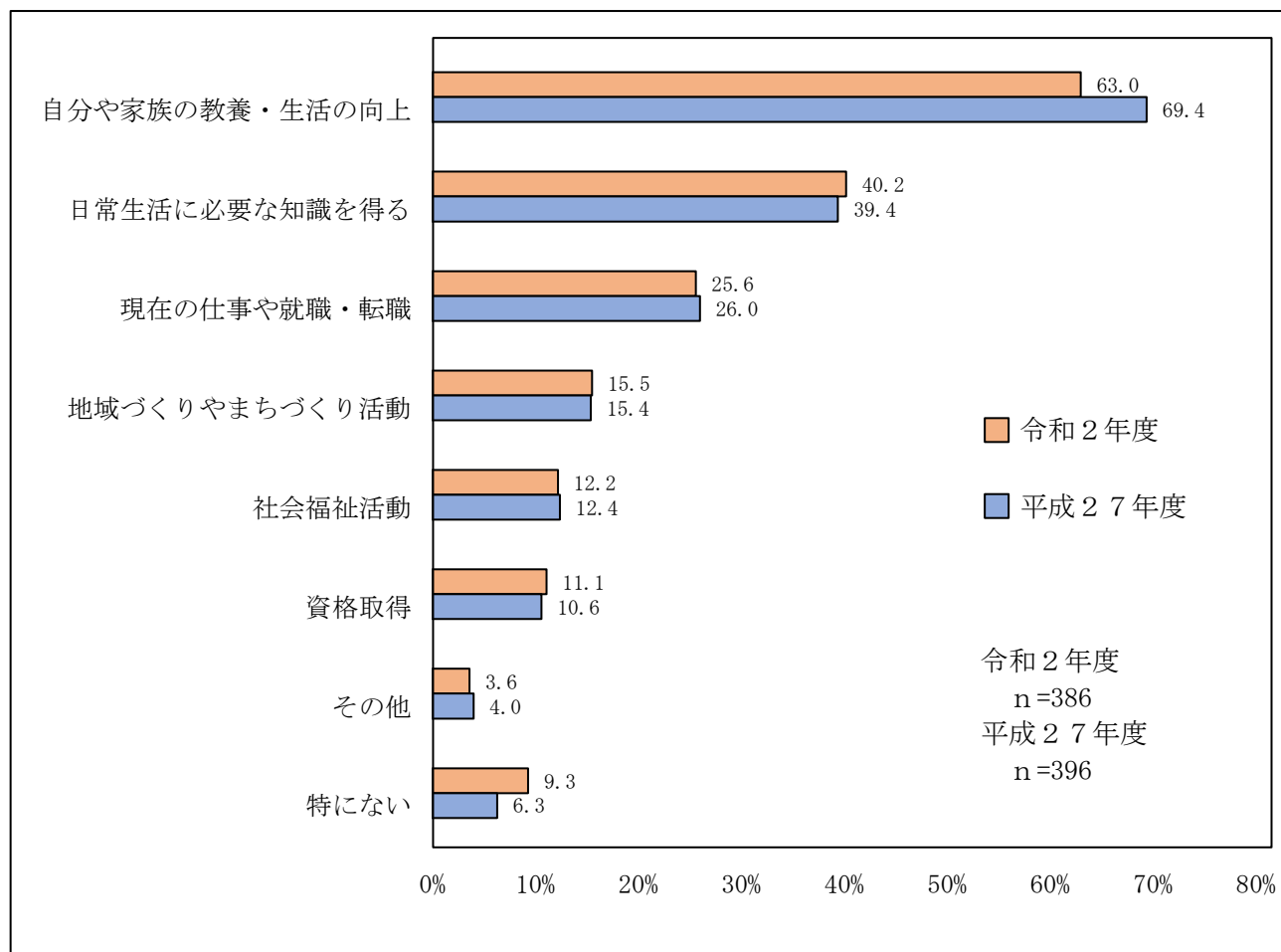
また、30歳代、40歳代で「職業上必要な知識・技能」、60歳代、70歳代以上で「ボランティア活動」の割合が比較的高くなっており、ライフステージ\*に応じて市民の学習ニーズに違いがあることがうかがえます。

ライフステージ：人生における乳幼児期・少年期・青年期・成人期・高齢期等のそれぞれの段階。

## 《学習成果の活用》

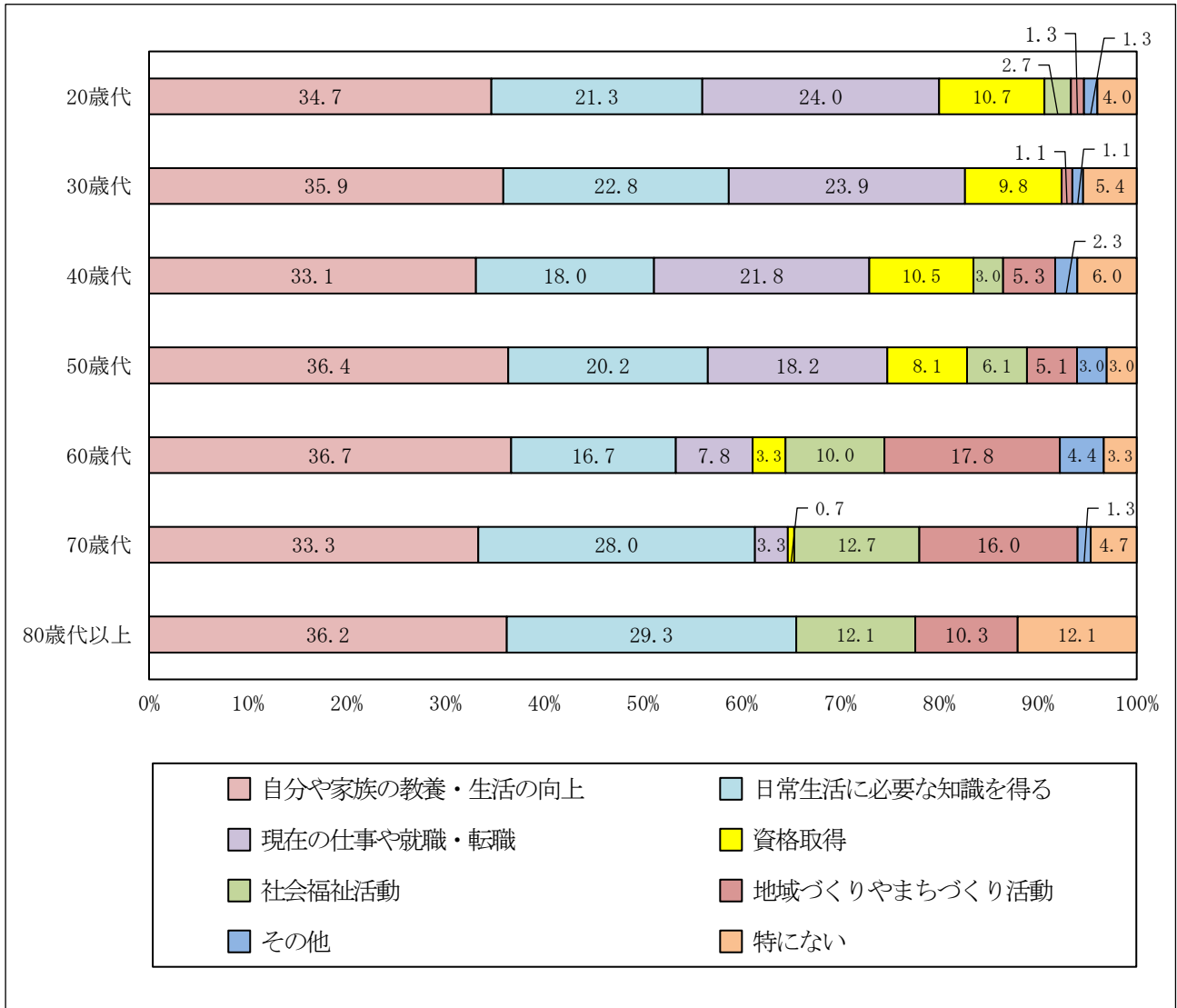
**設問** あなたは、学習活動で学んだことを、どのように生かしたいと思いますか。  
 (複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

## ■ 学習成果の活用について



学習活動で学んだ成果をどのように活用したいと思うかについては、前回の調査と同様「自分や家族の教養・生活の向上」、「日常生活に必要な知識を得る」、「現在の仕事や就職・転職」が上位3項目となっており、個人に関わるものが多くなっています。

■ 学習成果の活用について（年代別）

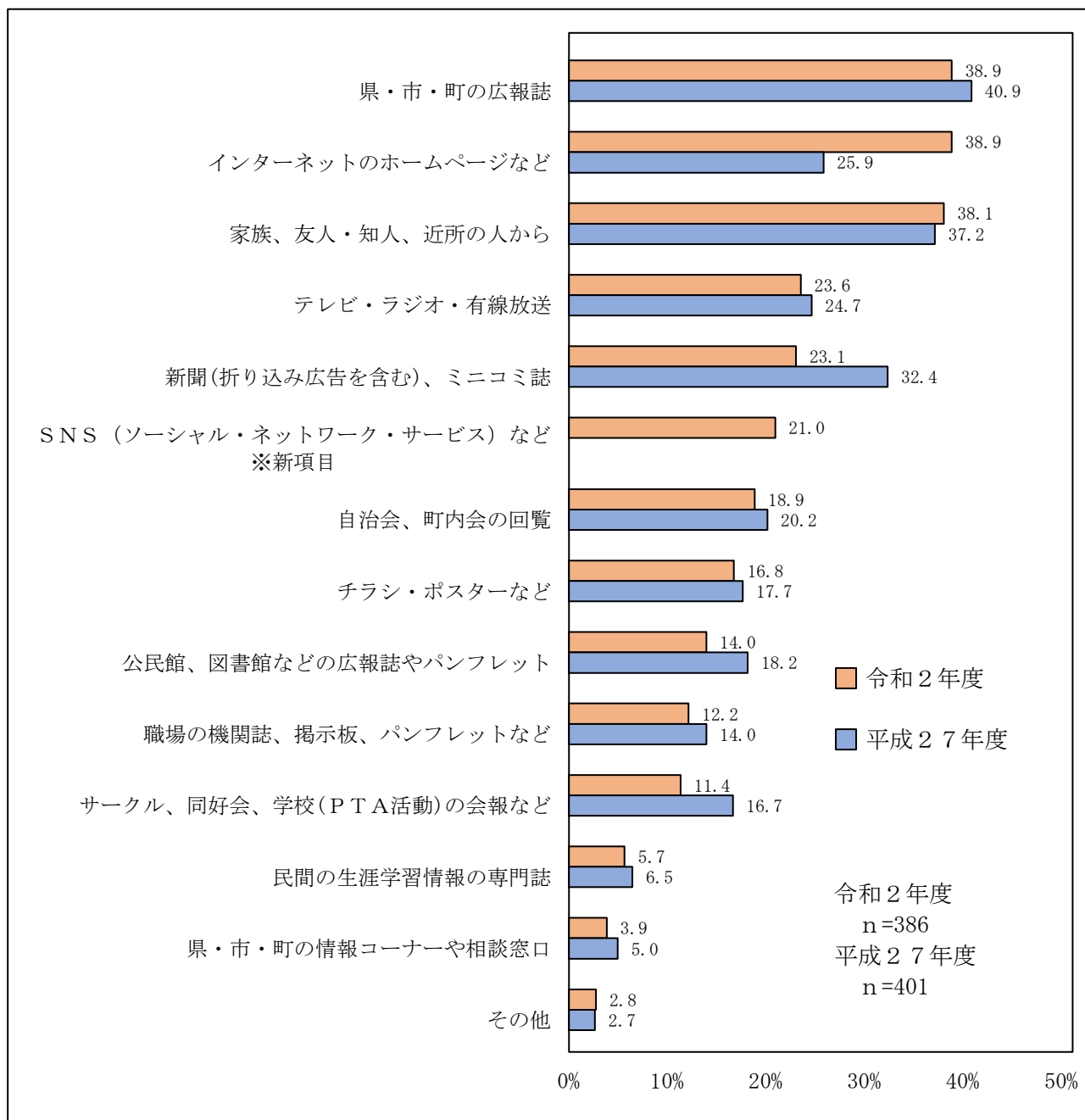


前回の調査と同様に、60歳代以降の年代において、「社会福祉活動」、「地域づくりやまちづくり活動」の割合が比較的高くなっており、アクティブシニアと呼ばれる層に対する成果を発揮できる機会の提供、交流の場づくり等の支援が必要となっていると考えられます。

《生涯学習に関する情報の入手方法》

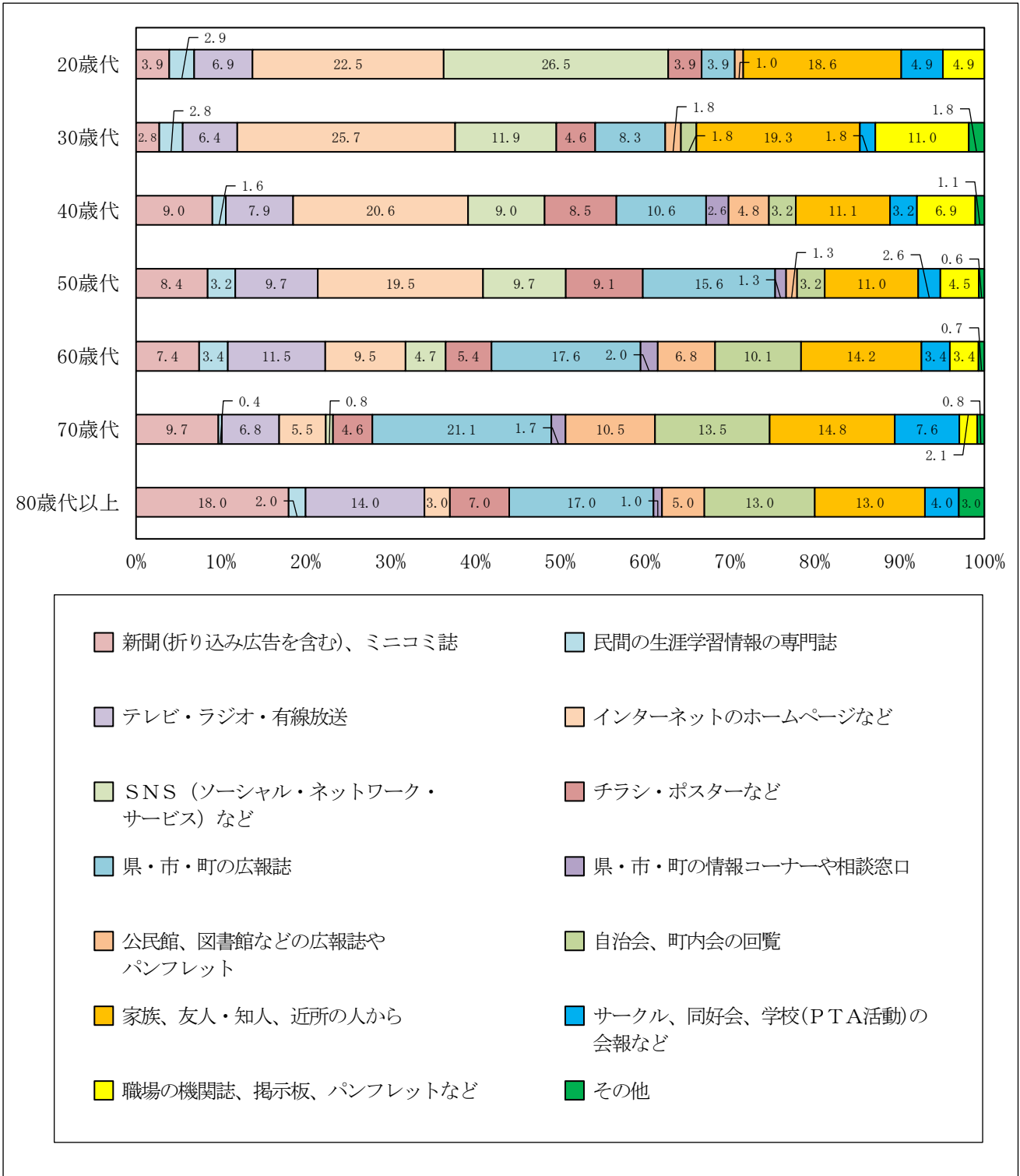
**設問** あなたは、学習活動に関する情報をどのような方法で収集していますか。  
 (複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

■ 生涯学習に関する情報の入手方法について



生涯学習に関する情報入手方法では、「新聞(折り込み広告を含む)、ミニコミ誌」の割合が低くなり、「インターネットのホームページなど」の割合が高くなっています。また、前回の調査と同様に「県・市・町の広報誌」が上位の項目となっており、身近な情報については、紙媒体による提供も重要であることがうかがえます。引き続き、さまざまなメディアを活用した学習情報の提供や情報誌の内容の充実を図っていくことが求められています。

■ 生涯学習に関する情報の入手方法について（年代別）

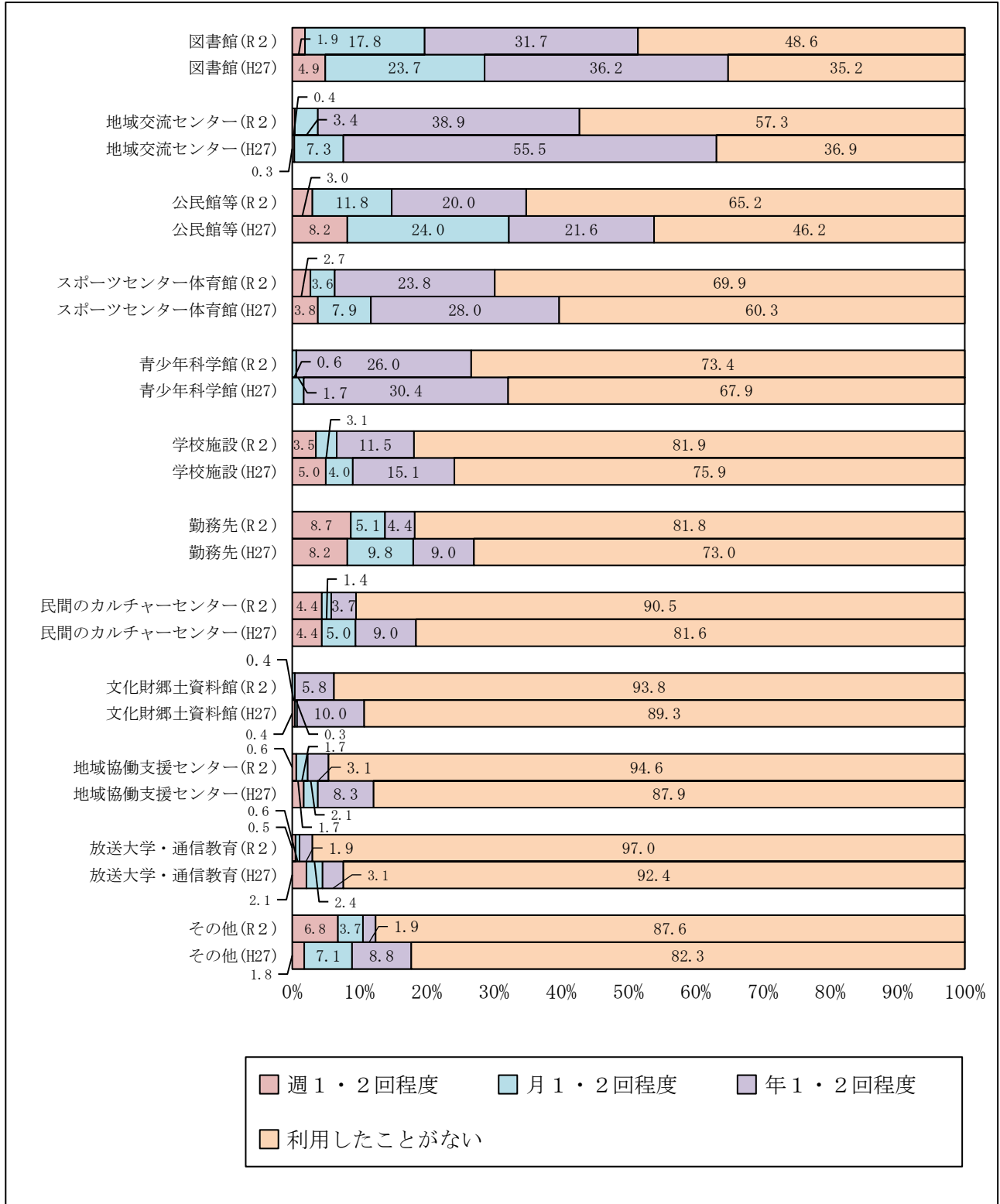


年代別に見ると、20歳代では「SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）」、30歳代では「インターネットのホームページなど」の割合が高く、50歳代以上で「県・市・町の広報誌」の割合が高くなっており、情報を提供する側において、対象年齢に応じたさまざまな情報媒体の活用が求められています。

《学習施設の利用回数と満足度》

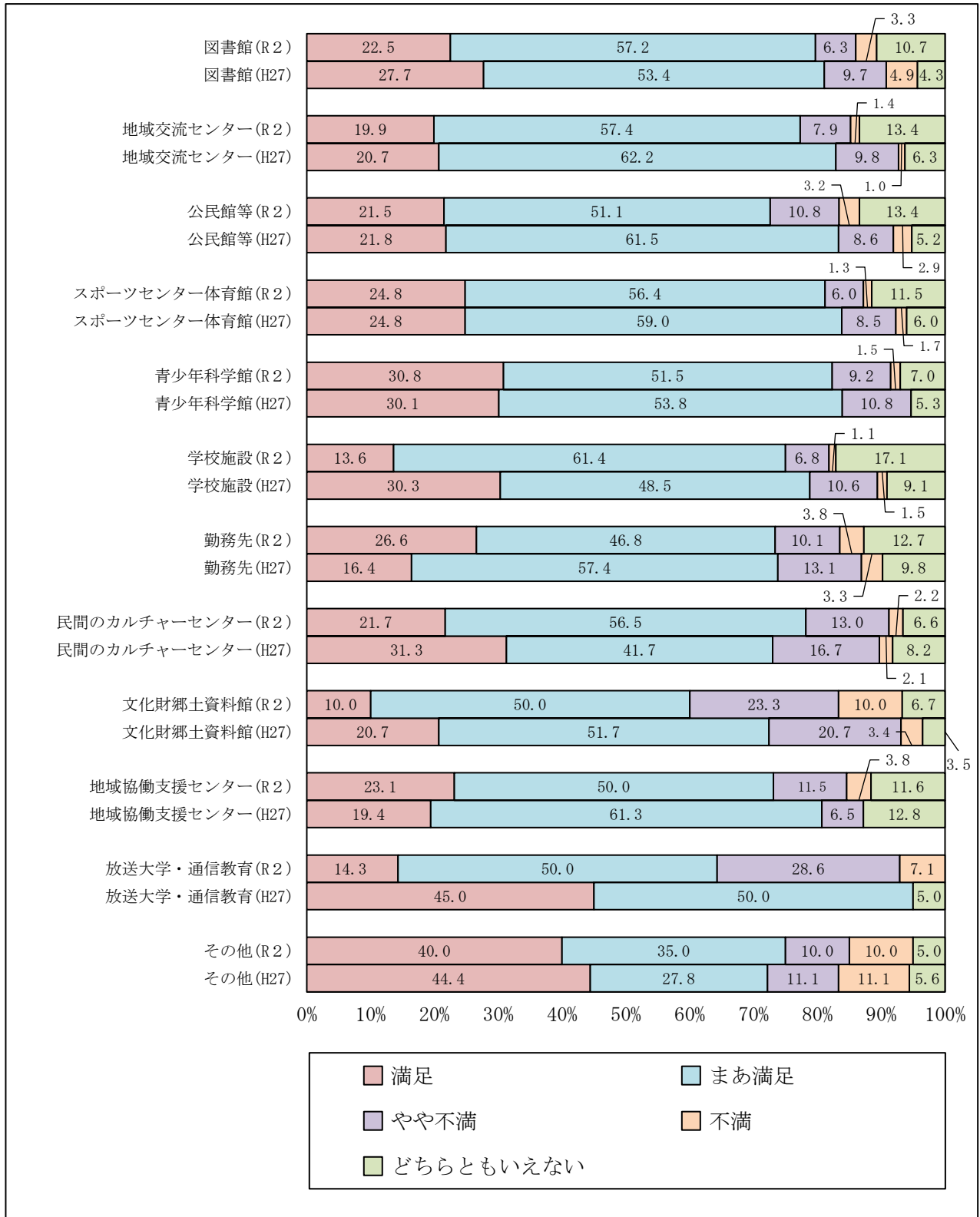
**設問** あなたは、この1年間、生涯学習活動に以下の施設等をどの程度利用しましたか。施設についての利用回数と満足度について教えてください。

■ 学習施設の利用回数について





■ 学習施設の満足度について

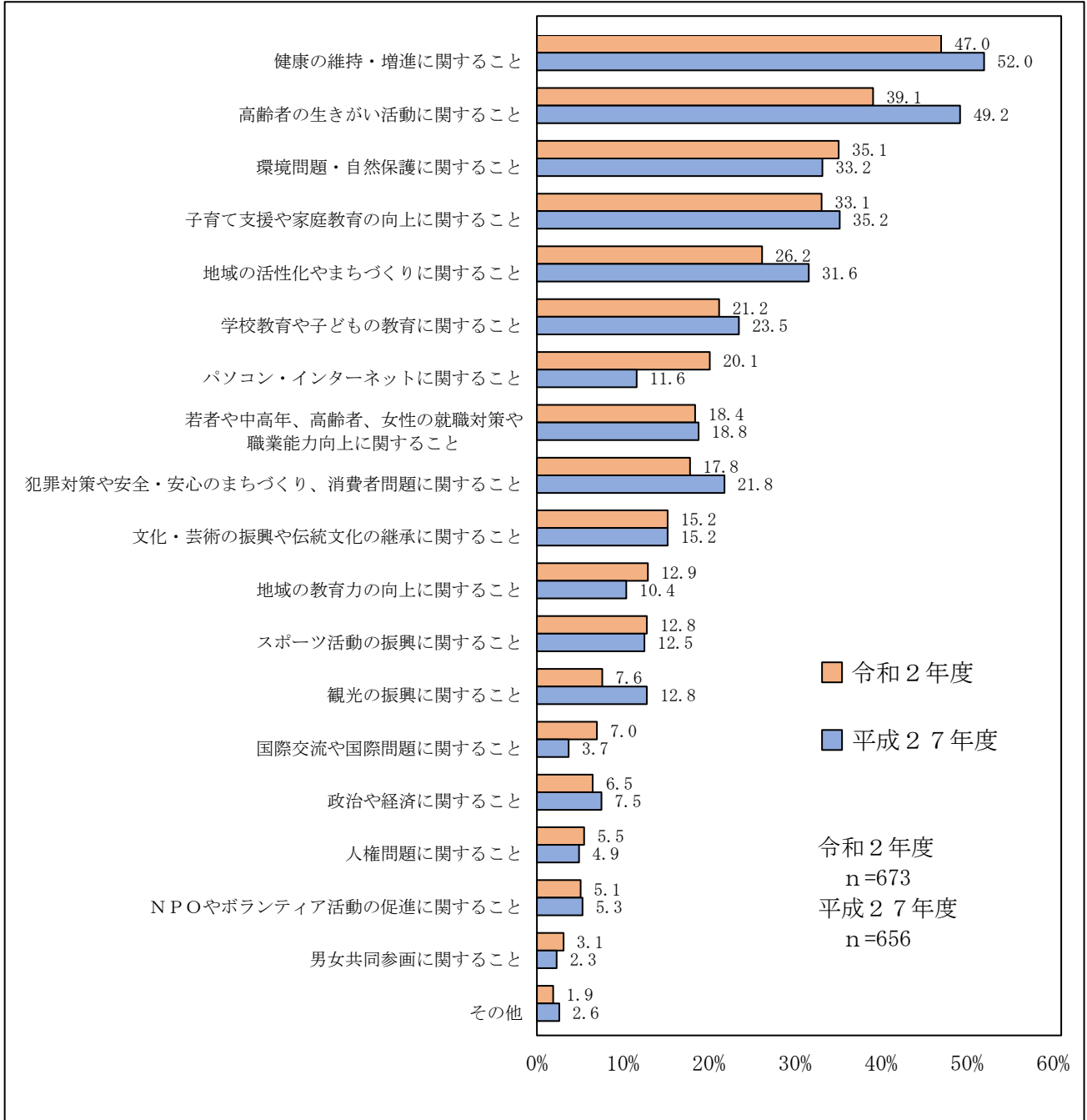


利用回数はどの施設も若干の減少傾向がみられます。しかしながら、利用満足度はどの施設も比較的高く評価されていることがうかがえます。

(4) 学習課題の重要度

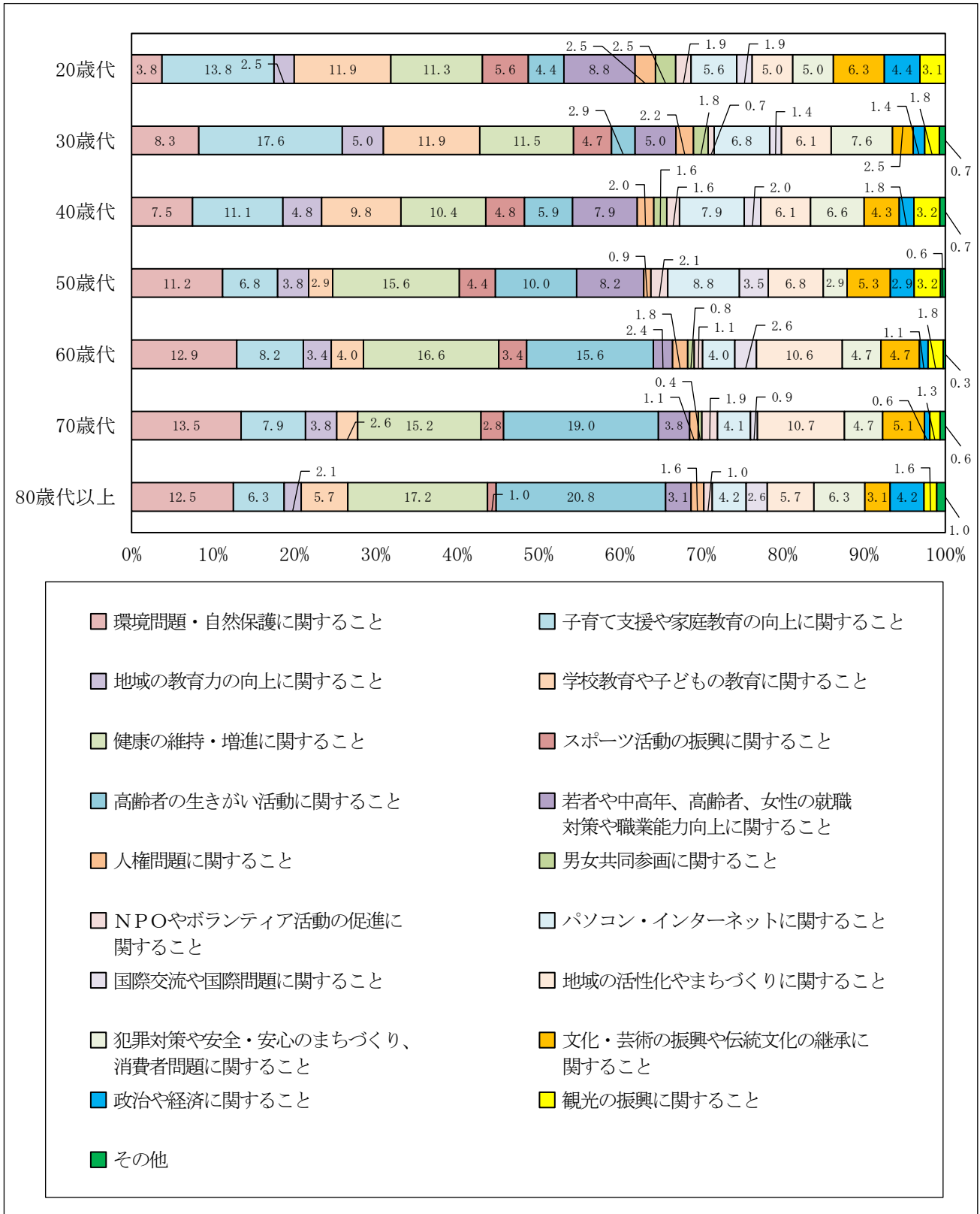
**設問** あなたは、今後、人々が学習活動を進めていくにあたって、どのような学習課題が大切と思いますか。(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

■ 学習課題の重要度について



学習課題の重要度については、「健康の維持・増進に関すること」、「高齢者の生きがい活動に関すること」、「環境問題・自然保護に関すること」、「子育て支援や家庭教育の向上に関すること」などが前回の調査結果と同様に上位となっています。また、今回の調査では、「パソコン・インターネットに関すること」と回答した人の割合が高くなっており、パソコンやインターネットに関する学習課題が大切だと思っている市民が増えていることがうかがえます。

■ 学習課題の重要度について（年代別）

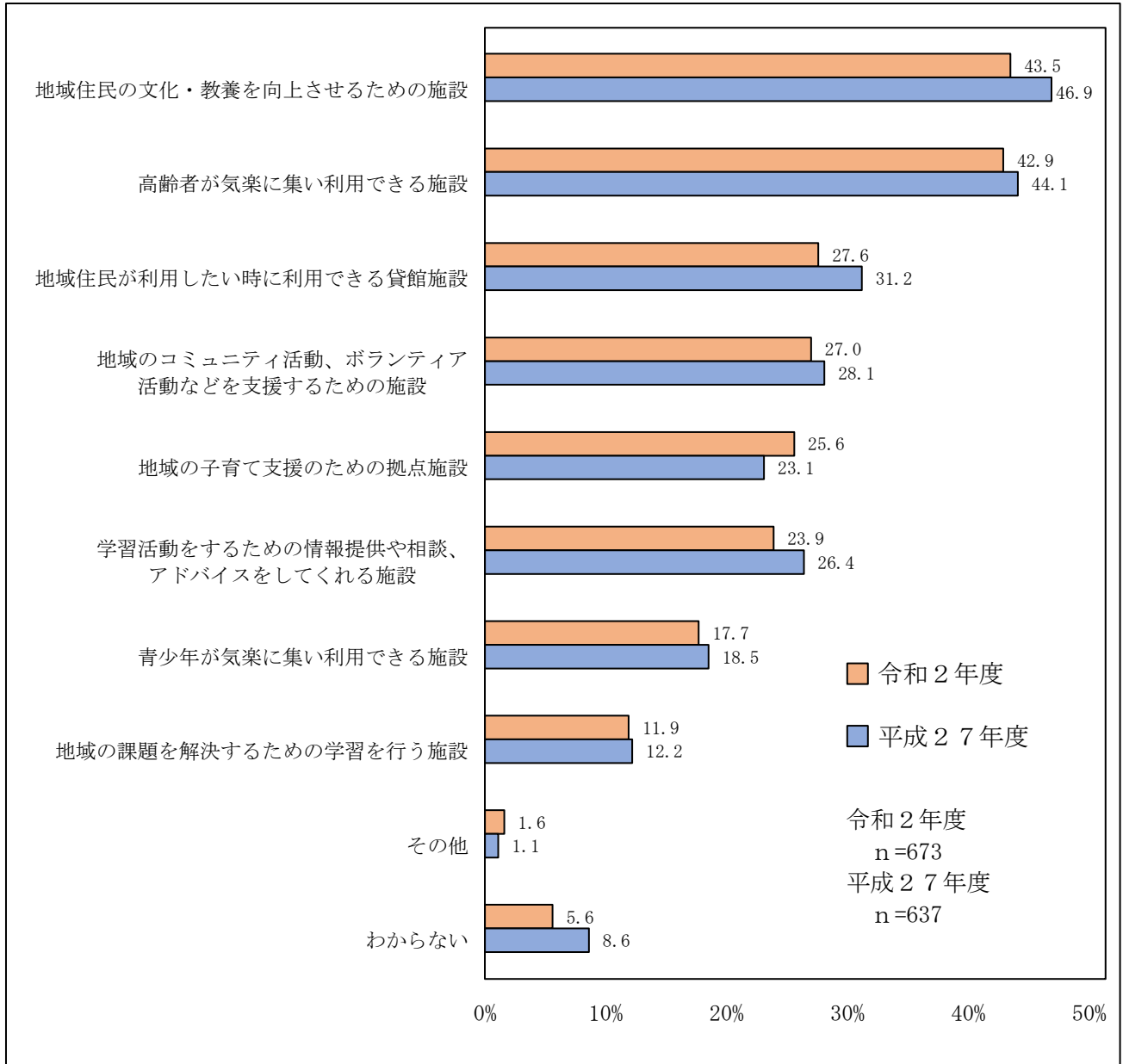


年代別に見ると、20歳代から40歳代で「子育て支援や家庭教育の向上に関すること」、「学校教育や子どもの教育に関すること」、50歳代以上で「健康の維持・増進に関すること」、「高齢者の生きがい活動に関すること」の割合が高くなっています。学習課題の重要度がライフステージに応じて異なることがうかがえます。

(5) 公民館等への期待

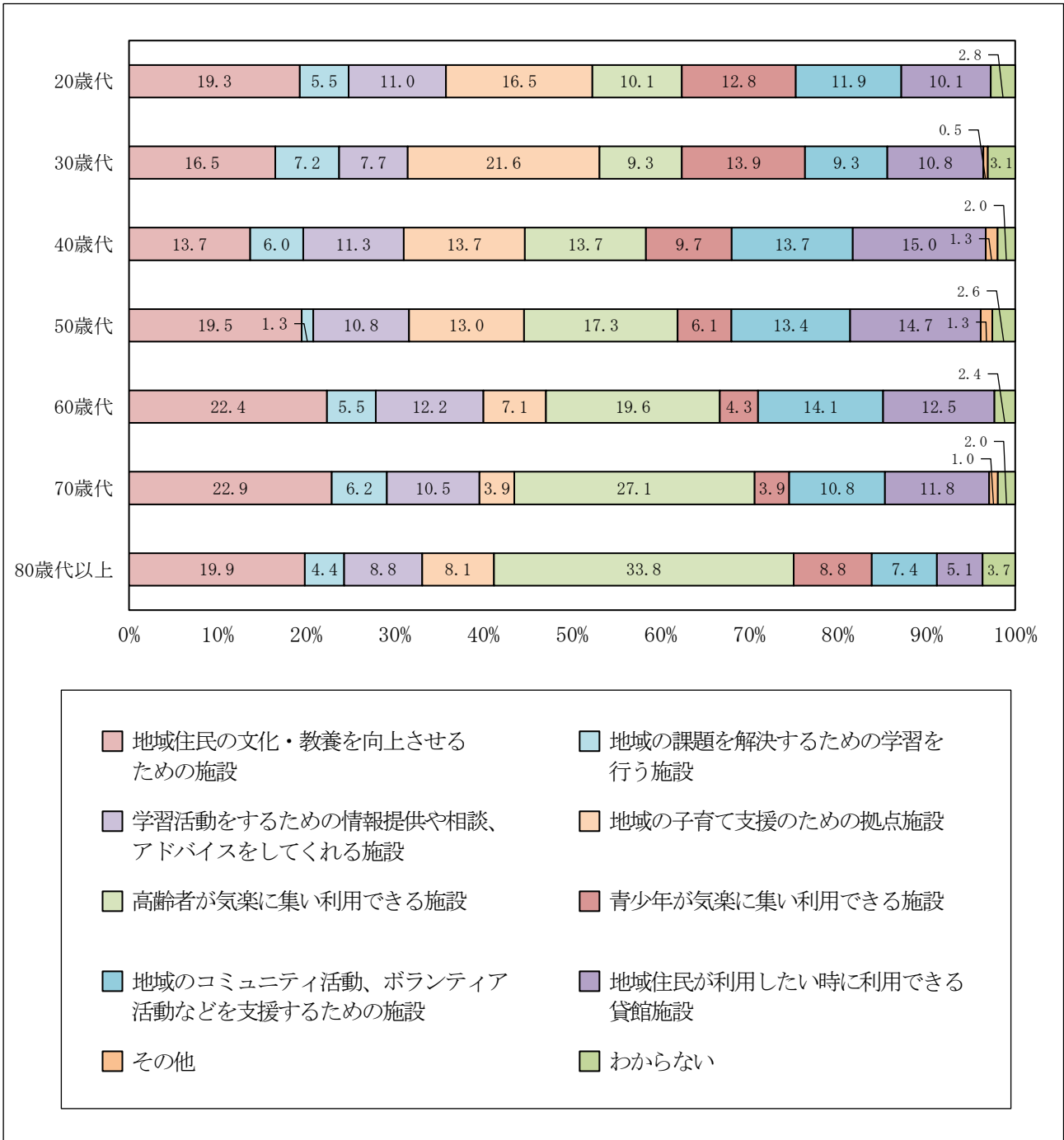
**設問** あなたは、文化福社会館、公民館、学習等供用会館、野島漁村センターが、どんな施設であることを期待しますか。(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

■ 公民館等への期待について



文化福社会館、公民館、学習等供用開館、野島漁村センターなどの施設への期待については、前回の調査と同様に「地域住民の文化・教養を向上させるための施設」、「高齢者が気楽に集い利用できる施設」の割合が高くなっています。また、「地域の子育て支援のための拠点施設」と回答した人の割合が増えています。

■ 公民館等への期待について（年代別）



年代別で比較すると、すべての年齢層で「地域住民の文化・教養を向上させるための施設」の割合が高くなっています。また、20歳代から30歳代では「地域の子育て支援のための拠点施設」の回答が多く、50歳代以降から「高齢者が気楽に集い利用できる施設」の回答が多くなっています。青少年、子育て世代、高齢者等のニーズに対応した的確な学習サービスの提供が求められます。